



**ふれあい** 長いコロナ禍が明け、人と人とのふれあいの場が少しずつ増えてきました。様々な交流を通して、地域の絆が深まっています。

ごみは誰かのパイプ役ー つなげてやさしい  
「上京ecoリユース図書館」「東部まち美化リユース図書館」



上京エコまちステーションでは、「上京eco リユース図書館」というリユース可能な本を集める取組が実施されており、連日通うファンもいるほど、気になるスポットになっています。東部まち美化事務所総合環境推進員兼崎さん、上京エコまちステーション作業長村上さんにお話を聞きました。窓口に持ち込まれたリユース可能な書籍・絵本は、1人2冊まで自由に持ち帰ることができます。また、リユース可能な本や子ども向け絵本、児童書は、1人1回10冊まで持ち込むことができます。1つだった本の棚が、今では4つに増え、本の種類も多岐に及んでいます。左京区高野にも東部まち美化リユース図書館が開設されており、ごみをパイプに人のつながりが育まれています。



室町体育振興会創立70周年記念  
室町区民体育祭2023年



10月には各学区などの体育振興会が主催となり、体育祭が開催されます。創立70周年を迎えた室町体育振興会 真田明会長に体育祭の歴史、課題や展望などを伺いました。

昭和55年(第27回)には町内の6割を占める44町内もの参加があったそうですが、これをピークに各町内の高齢化と小学生の数が減少していき、10年ほど前から参加する町内も減り始めました。そんな課題と向き合い、参加しやすく、地域の交流を増やしていける体育祭を目指し、70年の歴史に新しい風を吹かそうとしています。



世代を超えてお汁粉でつながろうー  
同志社大学経済学部同経会プロジェクト×老松



同志社大学経済学部同経会プロジェクトに携わる1～3年生32名の学生と、京都北野の「有職菓子御調進所 老松」が共同開発した「お汁粉」が11月、北野天満宮の天神市で販売されました。商品開発や販売戦略のブラッシュアップを重ね、「つながり」をキーワードに準備を進め、提供する容器に学生からのメッセージが添えられるなど、身も心も温まるものになりました。残念ながら販売数は目標に及びませんでしたが、学生たちはお客様の声を聞くとともに、課題を認識することができました。京都の老舗と若いアイデアの可能性に新たな1ページが加わり、地域の活性化にもつながることを感じました。

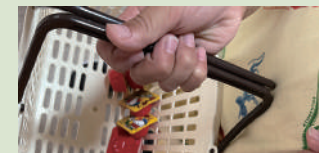
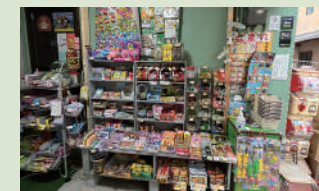


## 子どもとともに

これからの未来を担う子どもたちを主役にした活動や安心して子育てできる取組などが活発に行われています。

日常に溶け込む子どもの居場所「だがしやパンダ」

自宅のガレージを開放して「だがしやパンダ」を営む鈴木朝渚さん取材しました。店内には、色とりどりの駄菓子やおもちゃが並び、放課後や休日に子どもたちがお小遣いを手にやって来ます。お菓子を選び、友達と過ごす地域の駄菓子屋さん、子どもにとって行きつけの場、社会と関わる場になっているようです。

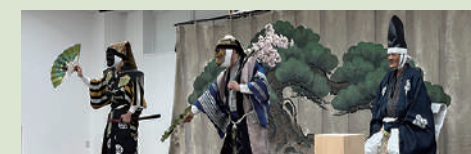


元気に!楽しく!西陣の伝統文化を織り交ぜた夏祭りを開催



西陣を活性化したいと思う地域の事業者が集う「西陣サロン」と「西陣 Fes 実行委員会」は、西陣の伝統文化や商いに触れる機会を子どもたちに提供するため、夏祭りを行いました。子どもたちは、ミニ畳づくりや餅焼き、京繻の塗り絵などを体験

したほか、射的や輪投げなどの縁日を楽しみ、千本ゑんま堂大念佛狂言保存会による狂言を鑑賞し、当日は終始大賑わいでした。



威力満点! 水てっぽう工作と水遊び

今夏、一般社団法人共同児童保育所虹の子クラブは、水てっぽう工作と水遊びのイベントを開催し、60名の子どもが参加しました。子どもたちは部品を組み立て、約50cmの塩ビパイプ製の水てっぽうを作った後、水てっぽうや6,000個の水風船を使って、水を掛け合いながら元気いっぱい遊びました。



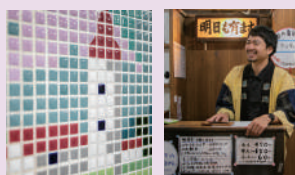
## 文化の継承

暮らしの中に多彩な文化が息づく上京区。こうした文化を次世代に伝える取組を紹介しています。

レトロ銭湯で心もほっこりー  
古くて新しいまちのお風呂屋さん「源湯」



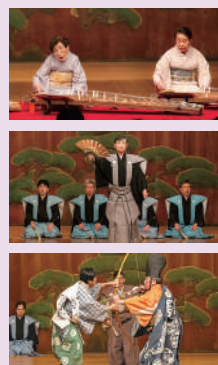
源湯は、1928(昭和3)年創業のまちのお風呂屋さん。通称「げんゆ」と呼ばれ親しまれています。老朽化が進み廃業予定だったところ、銭湯継業の専門集団ゆとなみ社が引き継ぎ、2019年7月リニューアルオープンしました。京都の銭湯が年々減少する中、こどもの日には子どもたちに番台体験をしてもらう「キッズ番台」や、入浴中の災害に備えた「防災訓練」など、銭湯と新しい企画を掛け合わせてユニークかつ、地域にとって欠かせない役割を果たしています。



ー文化庁京都移転記念ー 第57回  
上京薪能



和重上京薪能実行委員長に伺いました。「上京薪能」は昭和34年「能、狂言の夕べ」として、河村北星師と三世茂山千作師の御尽力のもと始まり、その後名称や内容が変更され、現在の形になりました。(令和5年度は、雨天のため金剛能楽堂で開催となりました。)二部構成で、能・狂言以外にも箏などの演目も披露されます。さらびやかな西陣織の装束も目が離せません。



畳の魅力を音楽で伝える  
「日本畳楽器製造」

1869年から大宮通に店を構える西脇畳敷物店。5代目店主の西脇一博さんは、「音楽を通じて畳の魅力を伝えられたら」と、2010年に音楽バンド「日本畳楽器製造」を結成しました。ギターやドラムなどの楽器を畳で作し、地域や学校、商店街などの行事で演奏しています。明るいつークと歌で場を盛り上げ、近年は海外からも声がかかり、活躍の幅を広げています。

